

2019年度GTセミナー 職域別見守る保育セミナー③

2019.10.7～10.8

第140号 2019年11月4日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談やご要望に応えるコンシェルジュがいるように、保育においても様々なご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=ミマモルジュとして、保育に関するご要望にお応えしていくよう活動していきます。

株式会社カグヤ 奥山卓矢

職域別見守る保育セミナー

2019年10月7日～8日に職域別見守る保育セミナーが東京都中央区のコングレススクエア日本橋にて開催しました。

全国から80名程の先生方が集まり藤森代表の講演や新宿区高田馬場にイタリアンレストランのお店を構えるカーポラヴォーロの鳥海シェフをお招きし「オーガニックや食材」をテーマにご講演して頂きました。

また、職域別見守るセミナーの醍醐味でもある職種ごとのグループディスカッション等、2日間に渡り研修を行いました。

1日目 2019年10月7日(月)

- 10:00～ 園見学
- 13:45～ 講演① ギビングツリー 藤森代表
- 15:15～ 休憩
- 15:30～ 講演② カーポラヴォーロ シェフ鳥海様
- 17:15～ 意見交換会

2日目 2019年10月8日(火)

- 9:00～ グループディスカッション
- 12:00～ 昼食
- 13:00～ グループ発表
- 14:30～ まとめ



職域別見守る保育セミナー2日目 座談会—後編

セミナー2日目は新宿せいが子ども園の先生方による座談会が行われました。

園長の藤森先生、保育士の森口先生、看護師の久富先生、栄養士の柿崎先生にご登壇頂き、新宿せいが子ども園での保育事例をお話をして頂きました。

倉掛：3人来て頂いていますので、具体的にこういうことをしていますよとかありますか？質問は「食」のことでのような好き嫌いの調査があるということで、毎日野菜を食べない子がいて、そういう場合にどう対応したらいいか。家庭へのアプローチはどうしたらいいか？おやつよりも遊び優先になっているように見えるなど。

藤森：調理は、私の園の場合は2回食。全部変えるべきと言われることがあるが、1回目にした後に給食会議をして、残菜とか反応の話し合いをします。黒ごまは食べないから、白ごまにしてみようとか、こういう味付けにしてみようとか、残菜に対する対応は、現場の意見を聞きながらそうしています。なので、2回しています。親は楽だから2回だというが、そうではない。私たちは何のために残したのか、味なのか、見た目なのか、量なのかを給食会議でやります。現場で保育士さんはどう対応しているかを保育の方から聞いてみたい。

森口：先ほど先生が話した内容が大元の考え方なので、それさえ外れていなければ、皆さんの対応は正解だと、前提として思うのですが、面白いのがジャガイモが嫌いな子がいて過ごしていると、ある日急に食べていたりする。隣の子の影響を受けていたりするので、他の子がいることの大切さを感じたり、質問の答えではないが、苦いねぎを食べていたらしい。0歳の子がそれを食べさせると取って食べたらしい。大人が美味しいだったら、食べているのだと、無理に食べさせないこと。無理に食べさせても食べないので、結果的に食べる意欲になるかなと思う。ポイポイ投げる子がいた。皿を投げる、口から出す、ご飯を握るとか捨てる子がいた。家の様子を聞いたら、犬を4匹いるそうで、捨てたら犬が食べてくるというエピソードがあった。大きいクラスでは、「自分が取ったのだから、食べなさい」ということは言う。それでも食べない時は、割と僕は「残しちゃいな」と言います。おやつであんこが出た。ある子が「知らない」といった。僕はあんこが好きなので、「一回食べてみな」と言った。それでも知らないなら、食べなくていいといったが、そしたら、「食べさせたら、美味しい」と言っていたので試食をさせた。「一回、食べてみなさいコーナー」というのがあって、食べてみたら食べれたりするので試食があってもいいのかなと思う。

藤森：345歳で量を言うのでこれはありとか、無しに言う中で、ご飯一粒をありと言っていた。子どもたちがみんなそれをした。ごはんの場合なので、その時はあまり食べたくなかったのかなと思います。

倉掛：毎日ご飯だけという感じなので、70パーセント以上変わっているということだった。よく一般的に言われる、白ご飯しか食べない子を思い出した方がいいかなと思います。栄養士、調理師さんと子どもとどのように関わっているか知りたいという質問があるがいかがでしょうか？

藤森：調理は3人いるが、ローテーションで345歳で食べる先生と、乳児と食べる先生と、職員室で私たちで食べる先生がローテーションしています。職員室で今日はどうだとか言えるし、345と食べる先生は、子どもから感想を聞いたり、乳児の場合は様子を見ているように感じるがどうか。

柿崎：3人でローテーションを組んでいるので職員の話を聞くのと、2歳までは一緒に食べる時間は難しいので、たまにどう食べているか、食べ具合、何が人気かを把握したり、345になると、子どもたちはやたら文句をつけるし、美味しいものは美味しいといってくるので、この味付けはこうして欲しいとか、2回目に味をどうしようとか、ニンジンの量を減らして欲しいといってくるので、「そこは直しますね」と言っている。保育士も色々なことを言ってくるので、聞きつつ色々な献立を考えている。

藤森：連携は基本的に言いやすい環境を作ることだと思います。人に言われるのは馴染めないかもしれないが、言いやすい環境を作ることも職場環境として大事だと思います。昔、息子に注意されたことがある。3歳の時にコーンスープが焦げ臭くて、妻に「焦げ臭くない？」といったら、息子から「まずい時にまずいと言えるのは、美味しい時に、美味しいという人なんだよ」と言われ、身に沁みていて、美味しい時には美味しいと言っている。私はどうしても苦手で、全部食べたら、おいしいことだろうと思ってしまうが、妻は私のいうことを信用できないとなる。ちゃんと美味しい時は美味しいという。いい時にも口にする、今日は美味しくなかった時は、おいしくないと言って、信ぴょう性がある。保育士さんとの連携だと思います。

倉掛：看護師は一人職ということで、苦労されているでしょうと書かれています。苦労されている中で、子ども同士の関わりも大事だと思いますが、色々な年齢の関わりも大事だと思います。感染症の予防などを防ぐときに、子ども同士の関わりを制限しないといけないときは、どうしたらいいかと書かれているがどうでしょうか？

久富：感染症でお手伝い保育は悩ましいことだが、基本に見守る保育と言って、何もしないかと言ったら、そうじゃない。保健として守らないといけないラインがあって、私たち看護師は専門職なので、感染症の拡大がある時は、専門性を表して、お手伝い保育をすることで広がる時はやめてもらっています。やる保育士さんの意図を組まないといけない所なので。重々に検討して、こういう感染状況なので、こう考えられるのでやめようと、常に相談している時間が多いためがする。ダメなの時は子どもに説明をして、「今日お手伝い保育できますか？」と聞いてくるが、子どもたちが流行るからダメみたいという話をしているので、看護職として活かした知識で、守りは必要ではないかと思っている。

藤森：感染症には気を遣っている。一つはメリハリで、保護者にも38度以上の次の日は休ませています。職員も凄く言われる。私なんかは医者に行くとインフルと言われると、「園に来ちゃダメ」と言われるので、あまり行かない。私の場合は4階に直通して、一人で行って一人で帰る。ダメな時はダメですね。結果的に親に感謝される。もう一つしていることだが、毎朝朝会で「何名感染症がいます」と全員が把握しています。親から欠席の連絡があった時に、「園でインフルが流行っています」と言ってしまうと、話が広まってしまうので、うちの園では「今2名です」のようにしている。曖昧ではなくて、きちんとした根拠で、今この病気は何名です。職員全員が言えるようにしています。日常的な菌には神経質ではないが、排泄物やおう吐処理を新人が入ったらする。そのグッズがある。おう吐したというと、それをもってその手順で片づけます。水に流すことはないように、気をつけるところは気を付けるが、そうでないところはしない。0はエプロンをつけないが、栄養士さんとよく

学校給食でもエプロンをつけるが、あれは何のために着けるか？一つは自分の服を汚したくない。あと何かというと、清潔かどうかというが、白衣の不衛生さと言ったらない。お当番が金曜日に持って帰って洗う。まだ私服の方が衛生的な気がする。マスクも研究では、子どもや赤ちゃんは発話を促すのは、子どもの口元を見ることで発話を促すと言われている。それを隠すのは、何のために保育をしているのかと思う。ただ風邪を引いている時は、移さないというのは分かる。2歳児が裸足のまま入るが、監査に不衛生ではないかと言っていたが、そういう指導も、「新宿一、感染症が少ない園に言っても説得力がありませんね」と自分で言って笑っていた。実際に少ない実践を見せるしかない。職員も共通して持っています。

倉掛：最後に私の方から会場から出た質問で、まとめの方向でお願いしたいが、園長職・事務の方から交流したいとあったが、目的を共有する。理念が共有できれば、ここは冷めてもいいけど、おいしいものがいいとか、共通理解が図れるのではないかと思う。保育はチームで行うポイント、要点を聞かせて頂けたらと思います。タオルはくっつけないようにというはどう考えますか？

藤森：お手拭きタオルは言われるが、お手拭きタオルは手を洗った後に拭くもので、手を洗う前は汚いもので、手を洗う前の手を繋いでいけないということですね。本当にそうなのですか？と聞く。タオル所ではない、濡れないと菌が発生すると言われるが、毎日持って帰って繁殖するわけはない。保健所は別かもしれないが、何か病気があった場合に行くとこで、ほとんど健常な子がいるところに適応しないでくださいという。看護の仕事は疾病を持った人を相手にしている。当然タオルが触れてはいけない。まず保育が大事、手をつなぐとか、助け合うとか、じゃれ合うことが大事なのを、衛生から言ってほしくない。「0歳は感染症が多いから別にしなさい」と言われることがある。それは何でか、感染症の心配があるからと言われた。隔離はもちろん必要だが、ちょっとでも罹った子は、そこにいれないということ。監査官に「ちょっとでも罹っている子は、登園を拒否していいんですね？」と聞いてみてくださいと言った。一番移らないのは屋外ですからね、狭いほど移る。0歳児室にどれだけの子がいるか知っていますかね。3月はもうすぐ2歳がいる。同じ部屋にしていいですか？というのも、ここにいれる0歳は年度なのか、満年齢なのか聞いてみてください、と言ったように、「触れないようにしてください」というが、何がいいか分からぬ。私の場合は「分かりました」と言っても、また別の方が言ってくる。子どもを守ることはあるので、正しいこともあり、気を付けないといけない。子どもが危険だったら、防炎の布を使うべき。事務で言った時に、領収書一枚なくてうるさいというのはそれはそう。税金を使っているから、ちゃんとした使い方しないとおかしい。それは当然の義務、それは子どもにいい保育をするために使うから、正当に領収書があっても、子どもが酷かったら不正支出。私の園で感心したことは、うちの園でねらいをほとんど書かない。お散歩のところに週案にねらいがないと言ったら、散歩にねらいは立てるべきではないと彼が言った。職員が「ねらいを持って立てるべきだ」と言ったら、彼は「ダンゴムシを見つけたら、見つけることに意味があるでしょ、消防車を見るに意味があるでしょ。ねらいを立てたって、子どもが見つけたものを、膨らませることが散歩じゃないか」と言ったら、「そんなの赤で訂正すればいい」とそれ言い合っていた。そうはいっても、ねらいを書いておいた方がいいとなったが、そしてある時ふと、お昼寝をしている最中にベテランに「何をしているの？」と聞いたら、「ねらいは、いらないと分かっている。でも、監査で通らないことを分かっているので、私たちベテランがねらいを書き足している」と言っていた。「必要でないことを若い人にやらせるやらせる意味はないが、だけど監査に通らないといけないことを知っている」と、それがうちのベテランの役目。若い人は、子どもにとって必要なことをすればいいとしてくれている。それもチームワークだと思いま

す。いくら抵抗しても補助金を使っているので仕方ない。男性がどうかと質問があったが、親が心配して辞めたというが男性は不利。私が小学校に務めていたが、女の先生が男の子に変なことをする方が多いですよ。だけとニュースに出ないですよ。だからそれは意識して避けないとだめ、私の園では0歳の担任の男性は、赤ちゃんのいる先生しか持たせない、誰でもいいのだが気を遣う。0歳の先生は赤ちゃんがいる先生、1歳は結婚している男性に限っている。ただ、うちの園のいいのは、お父さんの育児参加が多いので理解があるほうだが、気を付けている。それから私が気を付けているのは、345歳の部屋へ行くと、園長先生と女の子が付いてくることがあるが、周りを見渡して、誰もいなかつたら抱き着かせない。何を言われるか分からない。いると思ったら可愛がる。うちの保育室には壁がない、それは閉じこもれないようにするため、男性が多いとオープンにしないと、何を言われるか分からない。そういうリスクは避けないといけない。そんなことはないからこそ、守らないといけない。そのために全国の男性保育士に言いたいのは、絶対事件を起こさないで欲しい。事件を起こすと、全国の男性保育士はやりにくくなるし、園長や事務は絶対不正をしないで欲しい。それをするから、監査がうるさくなる。結果的には自分たちがやってきたことが来るので、一生懸命やっている方は迷惑なので、きちんと気を付けないといけない。子どもたちと一緒に過ごすことは楽しいが、人からどう見られているかを考えないと守れないと思います。今は監視カメラがあるので、それを見れば分かるが、パブリックな仕事、個人的な想いだけでする仕事ではないので、その意識を持って仕事をしてほしい。それぞれの職種から何ができるか、何を言えるかを考えてもらえたならと思います。もう少し彼らに応えてもらえたらよかったが、こちらから話してしまいました。

森口：保健も調理も保育士も、それぞれのラインを伝えるのが大事で、どう折り合いを付けていくかが出来る。

「こういうことなので休んでください」と言われた方が僕らも休みやすい。どうする？と聞かれても、どうしたらしいですか？となるので、その方が折り合いが付けやすい。

倉掛：今日はありがとうございました。このセッションはこれで終わります。職域別セミナーはこれで終わります。

最後に藤森先生にまとめて頂きました。ありがとうございました。

本稿は、2019年10月8日に行われた職域別見守る保育セミナーの座談会の様子をまとめたものです。

(文責/奥山卓矢)



〒161-0023

東京都新宿区西新宿3-2-11 新宿三井ビルディング2号館10階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ 奥山卓矢

ミマモルジュメールマガジン



メールマガジンのご登録は、
QRコードからお願いします。/